

J A福島中央会が菊メガ団地を視察

4月6日(月)、J A福島中央会の菅野孝志会長らが当J A管内を訪れ、男鹿・潟上地区園芸メガ団地を視察しました。園芸メガ団地が発足するまでの流れや施設設備、販売実績やスマート農業加速化実証プロジェクトなどを当J Aの職員が説明し、園芸品目の生産振興や担い手の確保について意見を交わしました。

菅野会長は花きの栽培が盛んな福島県内のJ Aの例を挙げながら、農家負担が大きい苗の供給方法や若手農家の就農経緯、作業の効率化が期待できる機械などについて興味深く質問していました。

花きの生産振興について意見を交わしました



秋田市園芸振興センター新規就農研修開講式

4月8日(水)、令和2年度の秋田市新規就農研修開講式が秋田市園芸振興センターで行われました。4月から研修を始める1年生2名が、2年間の農業研修への意気込みや就農に向けた抱負を語りました。

同研修では平成27年度の開講からこれまでに21名が研修を修了し、地域農業の担い手として活躍しています。

6期生にあたる1年生の2名も野菜や花きの栽培実習や模擬経営研修、営農計画書の作成や認定新規就農者の申請などを行い、令和4年春の自営就農を目指します。

新規就農へ意気込む6期生ら



NEWS & TOPICS

管内で土づくり肥料の散布がたけなわ

3月から4月にかけて、当J A管内で土づくり肥料の散布が行われました。作業員が天気や風向きなどを見ながら田起こし前の田んぼを往復し、ケイ酸質の土壤改良肥料「シリカ未来プラスII」を散布していきました。

ケイ酸質の土壤改良材の使用は当J Aが取り組む「こだわり米」の栽培基準のひとつとなっており、ケイ酸質肥料を投入することで高温下でも葉温の上昇を抑え、食味の低下を軽減させる効果が期待できます。

管内では4月末までに、約1800ヘクタールの圃場に散布を完了しました。

田起こし前の田んぼに肥料を撒く作業員



飛沫感染防止へビニールパーテーションを設置

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、当J Aの支店窓口にビニール製のパーテーションを設置しました。窓口の大きさや支店の間取り、空調設備などに合わせてビニールを張り、カウンター部分にはお客様とのやりとりができるスペースを開けています。マスクなどの衛生商品の慢性的な品薄状態が続くなか、利用者の皆様や職員の飛沫感染を防ぎながらサービスの提供を続けるため、職員が創意工夫を凝らして設置しました。

今後もご来店する皆様や職員の安全を第一に、感染拡大防止への対策を講じながら営業を継続していきます。

窓口に設置したビニールパーテーション

